

五ヶ瀬の霧立越え。白銀の大地が広がる。全国でも、これほどの樹水を望むことができるのは、この地のみだという。美しい。とにかく美しい。都会のイルミネーションなど足元にも及ばない。自然が織り成す完璧なアート。九州だからこそ美しい、樹水の世界がここにある。

日が昇り、氷点下だった空気が緩み始めた。昨夜9時ごろ、数日振りに樹水が消えるという有識者（山人）情報があつた。

そして、その消えていく少し前の樹水こそ、最高の樹水だというのだ。

空気の流れ、雲の具合、湿度、そして、風。五感

を使って、天候を推察して

いく山の男・寺崎は、九州中央山地の隅々まで

知りぬいている男。山、川、木、精霊、歴史、風習

など、九州中央山地のすべてに興味を抱いているのが、寺崎。

50歳になり、とうとう職場を辞め、今年念願だった「ECO九州ツーリスト」を立ちあげた「みちくさん」の仲間の一入である。

さて、朝8時から山上に向う。

五ヶ瀬ハイランドスキー場の入口から白岩山山頂へと登る行程で、遠く脊梁の山々が見え、神々しい。尾根から尾根へと続く、

駄賃付けの道を進んでいく。雪に負けじと我先に突き進んでいく。

歩いて30分くらい経ったころだろうか、突然、歓喜の声がパーティーから上がった。

自分もまた不覚にも小さな声を上げていた。あたりは二面の銀世界。美しい木々に無数の

煌めきが宿り、感動の極地に誘われていく。異次元の世界にとまどうように足を

一歩一歩進めていく。それから30分

ほどで、白岩山山頂が見えてきた。山頂へ続く道、ロープを頼りによじ登る。



そして、ようやく山頂へ到達。

顔に当たる風は強いが、目を開けて視界を

確認すると、そこには神が舞い降りていた。

遠く見える山々が幻想美の境地を作っていた。樹水のサンクチュアルな輝きは言葉に

できないほどであった。

それから数時間後、山人・寺崎の予報通りに樹水が瞬く間に溶けて行く。そして、こ

れもまた、寺崎の言葉通り、溶けていく樹水は、この世の美しさを越えていた。

来てよかった。樹水が消えていく寸前の輝きは、はかない。

神の光がこの大地に届く瞬間のよう。

全国のごこの樹水も同じだと思っていた。樹水の美しさにこれほどの違いがあるの

を知ったのは、貴重な体験であった。長野や新潟など全国どこでも樹水は見るこ

とができると思ったら、大間違いだということ。長野などの山上には低木が多く、五

ヶ瀬などブナ・ミズナラという高木の樹林の中の樹水は、ひと味もふた味も違う美し

さがあるということがわかった。

近代産業の蹂躪をみなかった九州中央山地。宮崎、いや南九州の、キンとした冬空は澄

み切っている。太古の昔、神々から人間が

いただいてきたものが、まだまだ残っている。たしかに中国からの黄砂やスモッグの

影響も多くなってきたが、影響の薄い冬こそ、この大地の神祕を一層身近に感じに

来てほしい。

自然を愁い敬い尊ぶ、エコツーリズムの原点は、しっかりと、この九州にある。

賀正
人と人、人と自然を愛でつなくアイロード。

編集長 福永栄子

サンクチュアルな自然 神々のいる風景

【宮崎県五ヶ瀬町】